

# イギリス的な情景

— the scenes in Britain —

早稲田大学 教授  
小田島 恒志

(第6回)

## パブ料理

湖水地方を旅した時、一つ課題があった。まだ学生の身で、初めて単身海外旅行をしていた自分にとって、ロンドンに在る間にはできなかったことがある——ファーストフード店以外の店で外食をすること。レストランでは10~15%のチップをおいてくるように、とガイドブックには書いてある。ロンドンではただでさえ物価が高いのに、それに加えて「チップを払う」なんて偉そうなマネは到底自分にはできそうにない、と当時の自分には思えたのだ。それでも、いくらか物価の安い地方に行けばできるかも…

実は、チップを払わずに外食をする抜け道がある。パブで食事をすればいい。パブは基本的に飲むための場所なので、料理を出さない店もあるが、観光地のパブならたいてい定番の「フィッシュ&チップス」や「シェパードパイ」(羊肉とマッシュポテトのパイ料理)や「ステーキ・アンド・キドニーパイ」(ステーキに腎臓肉のパイ)などのパブ料理を手軽な値段で食べることができる。しかもチップ不要。それでも、つついビールも飲みたくなって注文してしまうので、なかなか貧乏学生の適正価格には収まらない。

その解決策が「プラウマンズ・ランチ」。「耕す人=小作人の昼飯」とでも訳せようか。ワンプレートにパンと生野菜とチーズの塊だけが載ってい

るもので、これならファーストフード並みか、もっと安いこともある。ウィンダミアの駅を出て、さっそくパブに入って「プラウマンズ・ランチ！」と注文してみた。出てきた料理を見ると、まさに事前に調べておいた通りの一品。ただし、ちょうどケーキを一人前食べる時のように三角形(三角柱?)に切られたチーズの量が思いのほか多かったのだけれど。おかげで思ったよりも満腹になった。

ひとしきり観光をして回って、夜、今度は夕食をどうしようかという問題になった。昼間のパブ料理の注文で少しは自信がついてはいたものの、やはりまだチップを払う必要のある店に入る勇気はない。結局、昼間と同じパブに入ることにした。が、それだけでは物足りない。実は、昼間食事した時に他の客を観察して学んだことがあった。カウンターの横にある黒板にずらりとチョークで書いてあるなんだかよく読めない単語の一覧表が、料理のメニューのようなのだ。「その上から3番目のやつね、それとビール」といかにも慣れた人間のように注文してみた。出てきた料理を見て愕然とした。昼間食べたものとそっくりなのだ。どうやら黒板の一覧はチーズのヴァリエーションだったらしい。さすがに一日にチーズの塊二つは重すぎた。トホホ。